洗足

SENZOKU Vol.1

私たちは「地域と共に歩み、
地域に生きる施設づくり」を
心がけています。

ヨハネによる福音書13章　◆イエス弟子の足を洗う

Since
1975年6月

CONTENTS

1 巻頭言：土肥理事長

2 こうして神戸聖隷は始まった!

3 35年記念式典

4 おいでやすカーニバル

5 北但広域療育センター

6 風（ふぅ）発達クリニック

7 種谷牧師メッセージ

社会福祉法人
神戸聖隷福祉事業団

〒654-0142
兵庫県神戸市須磨区友が丘1-1
TEL：078-792-7555
FAX：078-795-4511

http://www.kobeseirei.or.jp

13章　8節　ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら 、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。

巻頭言

理事長
土肥 隆一

2010年6月、神戸聖隷福祉事業団は法人設立35年を迎えました。この度、法人全体の活動について利用者の方々を取り巻く保護者の皆さま、ボランティアの皆さま、広く募金や物心両面にわたってご支援下さっている方々に法人の姿をお伝えする必要があると考え、広報誌「洗足」（せんぞく）を発行することになりました。

「洗足」とは新約聖書ヨハネ福音書13章3節～10節の記事から命名したものです。

主イエスが十字架に架けられる前の晩、弟子たちと最後の晩餐をされたときのことです。

イエス様は突然立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを腰に巻き、自らたらいに水を汲んで弟子たちの足を洗い、手ぬぐいで拭き始められたのです。弟子たちは驚きそんなことをしないでくれといいます。何故なら足を洗う仕事は奴隷の勤めであったからです。一番弟子のペテロは言います。「わたしの足など決して洗わないでください」と。イエスは言います。「もし私があなたの足を洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と。

神戸聖隷の「隷」という字は、正にキリストの洗足から来ているのです。キリストが「あなたたちの足を洗わなかったら『何の関係もなくなる』」といわれた。神戸聖隷が聖なるキリストから何の関係もないと言われるとしたら、私たちは空しい仕事、価値なき事業をしていることになるのです。

私たちが広報紙に「洗足」と命名したのは、私たちの決断を言い表すことであります。奴隷の仕事をイエス様が実践されたこの洗足を、私たちがこの事業を通して実践するとき、キリストとの関係が保たれ、神戸聖隷事業団の意味が定まると考えております。

こうして神戸聖隷は始まった!

なぜ、西神戸教会員が社会福祉を?

日本キリスト教団西神戸教会は教会委員60名の若くて新しい教会

1960年後半頃、教会員の大半が戦争体験者。戦後の混乱期をくぐり抜け、高度経済成長期社会の中核であったが、成績に左右される毎日に疑いを持ち「何か社会的なことを…」と考えた。アメリカから派遣されていたパーソンズ宣教師との出会い。「社会奉仕するキリスト教徒とキリスト教会活動」の教えを受けて、社会福祉を夢見て動き始めた。

キリスト教福祉の先輩、浜松の聖隷福祉事業団を訪ねて、感動

1971年6月キリスト教福祉の先駆者のひとりである長谷川保が理事長をしていた聖隷福祉事業団を見学し、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」をモットーに「福祉」「医療」「教育」の花が咲き実を結んでいるのを見た。浜松市の聖隷福祉事業団はキリスト教福祉の先輩として、大輪の花を開花。だが、全国的にはキリスト教福祉を実践している教会はまだまだ少ない状況であった。

この見学で、教会奉仕の在り方に感動。自らの手で福祉事業に取り組む事を決意。17名からなる「めぐみ福祉事業会・恵生園建設準備委員会」（以下、委員会）を発足させた。これにより、活動の目標が明らかになっていき、計画が現実のものとなる。

1976年6月の開園に先立ち、教会員の中から4世帯14名と単身者3名の仲間が働き手として、神戸から和田山へ移住した。

神戸聖隷の最初の施設恵生園

現在の西神戸教会

パーソンズ宣教師と西神戸教会員

なぜ和田山町と神戸市の2ヶ所に福祉施設を?

はじめは、福祉施設の予定地は神戸市内

1972年、神戸市長と面会し当事業への理解と協力をお願いしたが、「資産・法人格がない」団体である事がネックとなり支援を断られた。ここで教会員の思いは一旦頓挫するかに思えた。

思わぬ朗報が福祉構想の和田山の地より

意気消沈の3ヶ月後、和田山より耳寄りな土地情報が寄せられた。福祉村を標榜する和田山町の要望どおり計画が進んでおらず解決策を検討しているということであった。そこにはマスタープランに格好の1万坪の土地があり条件も合致した。法人格の問題は、浜松市の聖隷福祉事業団の傘下に参画させていただくことで条件をクリアし、建設推進へと前進していった。こうして神戸聖隷福祉事業団の第一号施設「恵生園」が誕生したのである。

国際障害者年に神戸市より土地無償貸与の話

和田山町で6年間社会福祉の実績を積み重ねてきた神戸聖隷福祉事業団に対して、1981年の国際障害者年に、神戸市から元国立神戸療養所跡の市所有地約2万㎡の無償貸与の申し出があった。

周辺自治会に熱意が伝わり、着工

場所は神戸市須磨区友が丘の住宅地の中。関係者の協力と法人側の熱意が通じて着工にこぎつけ、1982年4月「神戸聖生園」、5月「神戸愛生園」開園の運びとなった。これが神戸市内における最初の法人施設の誕生である。

開園にあたっては地元自治会が「おいでやすカーニバル」という歓迎会を開催してくれた。今では、「おいでやすカーニバル」は神戸聖隷福祉事業団が開催し今年（9月23日）で第30回を迎える一大イベントとなり地域への感謝と交流の時となっている。

当時の自治会長は後に熱心な支援者となり、自治体自ら社会福祉施設を2ヶ所開設された。神戸聖隷福祉事業団から新しい芽が息吹いたのだ。

街頭募金活動をする教会員

神戸愛生園と神戸聖生園の竣工式

1981年（昭和56年）11月27日 金曜日 朝日 夕刊 西部

家庭

施設へ転身 熟年ビジネスマン

神戸で求者開所の2園長

本当の仕事みつけた

夫婦手携え第二の人生

1981年の朝日新聞より

なぜ、名前に「聖隷」という命名を?

聖隷とは「聖なる僕」のこと

西神戸教会の礼拝から誕生した神戸聖隷福祉事業団。聖書に示された「愛の奉仕」の実践のために、街頭募金を始め、何人かの教会員が会社を退職し施設の働き手となり、幾多の困難を乗り越えて、1976年法人第一号となる恵生園を誕生させた。これらは、地位や名誉というものを捨てキリスト教理念で社会福祉に貢献すること（聖なる僕となること）を目指したからである。

長谷川保の言葉は、創立精神の原点

西神戸教会の教会員が「キリスト教による社会福祉の実践」を考えて、見学に訪れたのが浜松の聖隷福祉事業団。そこで当時の理事長の長谷川保氏から「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の掟である。」という聖書の言葉を引用し福祉の重要性を熱心に語られ、聖隷福祉事業団の苦難の歩みと現在について紹介された。

この見学が契機となりキリスト教福祉の実践に向け本格的な施設計画に入った。このため浜松の聖隷福祉事業団から独立し社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団となったとき「社会奉仕するキリスト教徒とキリスト教会活動」一貫した活動という精神が変わらない以上、「聖隷」の名は自然に残った。

聖隷福祉事業団の創始者長谷川夫妻

35年記念式典

35年記念式典セレモニー

日時／2010年7月31日(土)
場所／シーサイドホテル舞子ビラ神戸

開会礼拝

瀬尾本部長司式のもと礼拝が行われ、種谷牧師より「生き甲斐について」という題で説教がありました。また礼拝後、2009年度永眠者追悼式が行われました。

土肥理事長挨拶

永年勤続者表彰式

永年勤続者の表彰式がおこなわれました。

勤続10年
安部さん　岩本さん　大川さん
大島さん　上甲さん　千葉さん
野中さん

勤続20年
天橋さん　金井さん　西郷さん
竹増さん　吉田さん

勤続30年
竹本さん

感謝状贈呈

神戸地区・和田山地区でお世話になっているボランティアの方や寄付をしてくださった方、奉仕活動をしてくださっている方に感謝状贈呈式が行われました。(五十音順)

あじさいの会様	井上様	金森様	㈱シミズ様	㈱林タオル様
釜野様	北須磨団地自治会様	久保様	グループ“わ”様	神戸明生会様
コープ横尾 福祉グループ様	小島様	自立センターひょうご保護者様	創輝会様	創弥会様
創友会様	高城様	田中農園様	藤堂様	中塚様
難波様	野村様	音楽クラブ「バーチェ」様	播磨様	前川様
山田様	横井様			

口笛演奏　「Portside Blend」(ポートサイドブレンド)

神戸を拠点に、小学生から大人までの、国内最高レベルの口笛奏者が多く在籍する、日本を代表する口笛サークルです。

昼食会

昼食はバイキング形式で楽しみました。

昼食会では同時にパネル展も行われ、たくさんの方に興味を持って見ていただきました。

記念講演「隣人であること、地の塩となること」

神奈川県立保健福祉大学教授　河　幹夫 先生

わが国の80兆円の社会保障給付費のうち、福祉や介護、医療などの32兆円は、現金ではなく、社会サービスとして給付されます。この社会サービスは貯蔵も移動もできません。つまり、その時その場で、そして向かい合う人間の間で、人間の営みとして給付が行われるという特性をもっています。私はこうしたサービスを「ヒューマンサービス」と申しております。

ヒューマンサービスが念頭に置かなければならないことは何か。それは「人間の尊厳」(アルフォンス・デーケン)から出発しなければならないということです。どういうことかというと、人間は自分で考えることができ、自分の考えに従って生き方を自由に選択でき、愛することができるということです。であるにもかかわらず、私たち福祉の現場にいる者は、「愛情を持って」、「障害者は…できない」という結論を簡単に出しすぎているのではないでしょうか。例えば、長谷川保さんは、自ら苦労して創造した特別養護老人ホームの不自由さを早々に超えて、有料老人ホームを発想し実現しました。その際に長谷川さんはかつて主体的に制定に係わった憲法25条をも、「これを乗り越えて実現する」というアピールをしています。

ヒューマンサービスの仕組みは、「舞台装置」と「舞台の上」とで説明できます。例えば障害者へ個別の支援が行われるのは舞台の上においてです。そしてその実現のために社会的に支送りをする制度が舞台装置です。この仕組みは、福田恒存の言葉を借りますと、舞台の上の「一匹の羊」のために、「99匹の羊」が舞台装置を支えるという言い方ができると思います。こうした99匹の羊の犠牲を伴う社会連帯の上に私たちの仕事が成り立っているということを忘れないでいただきたいのです。社会サービスは移動できませんが、長谷川さんのような先見的な方がいない地域でも、よきサマリア人のように、目の前の人に近寄って助け起こして介抱することができるようにする必要があるのです。

私たちこの仕事にたずさわる者に求められる「隣人」としての仕事は、あくまでも人間の尊厳が出発点であり目標であるということ。それから、福祉従事者あるいはクリスチャンだけで社会をつくるのではないということを理解して、社会の中で私たちの理念なり福祉の夢なりをきちんと発信して、舞台装置を支えている国民の同意と了解をとっていくという「地の塩」としての役割をも担っているということを理解しておいていただきたいと思っています。

シンポジウム「神戸聖隷の志を探る」

司　会
土肥 隆一

神奈川県立保健福祉大学教授
河　幹夫 氏

元和田山町長
小山 恒一 氏

元神戸聖隷福祉事業団理事長
金附 洋一郎 氏

元神戸聖生園施設長
瓦田 信之 氏

元神戸聖隷福祉事業団副理事長
越智　靖 氏

約35年前、「和田山福祉村計画」と合致しキリスト教の団体が地域に受け入れられていった事を語られた。

約38年前の街頭募金から始まり地域の人に支えられてきた。地域との関係が希薄化している今、再び施設から地域に目を向ける必要があると述べられた。

制度と制度の狭間にいる人にこそキリスト教福祉の光をさして欲しいと期待された。

おいでやすカーニバル

「ありがとう30☆回ともに未来へ」

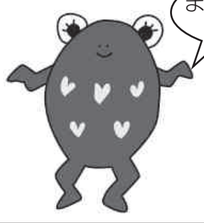
2010年9月23日(木・祝)雨天決行

◎時間 10:00〜14:00　◎場所 須磨区友が丘1丁目1番地(神戸愛生園、神戸聖生園、神戸友生園中庭)

※駐車場は台数に限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用の上ご来場ください。

模擬店 ＊たこ焼き・カレー・焼きそば・ラーメン
＊寄贈品販売　＊ゲームコーナー
＊その他

ステージ ＊吹奏楽団による演奏
＊ダンス　＊サンバ
＊沖縄三線



主催：神戸聖隷福祉事業団 須磨友が丘三園
共済：神戸市須磨区社会福祉協議会
(赤い羽根共同募金の配分金を活用しています)
後援：神戸市、神戸市一の谷ライオンズクラブ
神戸新聞厚生事業団
協賛：北須磨高等学校、啓明学院、コープ北須磨
神戸総合医療専門学校
神戸大学医学部保健学科地域連携センター
須磨北郵便局、須磨友が丘高等学校、須磨東高等学校
友が丘中学校、友が丘婦人会、万代北須磨店

北但広域療育センター風（ふう）

（施設特集 シリーズ1）

児童デイサービス事業「すまいる」

幼児中心のグループでの療育訓練を、個別支援プログラムに基づき実施いたします。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門スタッフによる各種訓練相談、医師による健康相談、家庭訪問や学校との連携・サテライト事業（新温泉・香住等でも行ないます。）

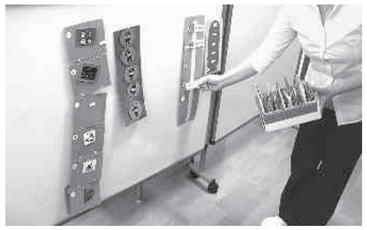
対象地域：豊岡市、香美町香住区、新温泉町
利用定員：一日20名（午前・午後　各10名）
利用日時：月～金曜日　　10時～17時
実施内容：週1回～週5回の3～5人グループ制
　　午前2クラス、午後2クラス
スタッフ：保育士、サービス管理責任者、保健師、指導員、理学療法士、言語聴覚士、
　　心理士を含め9名

私たち専門スタッフがお待ちしています。

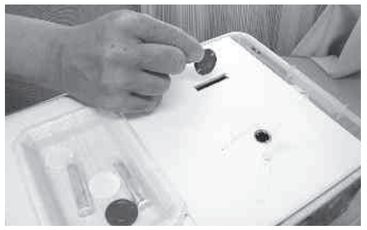
発達障害を持つお子さんの療育訓練を実施しています。午前中は幼児、午後は学童のクラスです。幼児クラスは、一人ひとりプログラムが違います。みんなで手遊びや模倣、親子体操行い、そして自立して、絵カード合わせや、穴の形に合わせて小さなパーツを入れるといった課題もしています。午後の学童のクラスは、社会性を中心にコミュニケーションや感情理解の支援の場面設定をし、活動後に気持ちの振り返りをしています。幼児クラスも学童クラスもプログラムを絵で表してわかりやすいようにしています。

お子さんたちはみんな違った特性を持っているので、一人ひとりに合った療育が求められています。それと同時に、保護者さんへの支援も必要です。保護者さんがお子さんの障害を受け入れられ、共に成長が喜べるように働きかけることがとても大切で、時には学校や幼稚園に対しても、お母さんの思いを伝え、納得のいく支援をしてもらうように橋渡しをすることもあります。

その様な日々の中で、お子さん同士が寄り添ったり、励ましあったりする姿も見られ、お子さんたちの可能性は限りないと感じています。



絵カードでプログラムを作って確認します。



穴の形に合わせてちいさなパーツを入れます。

午後の学童クラスの準備です。
お子さん一人ひとりに合った療育課題を準備します。

重症心身障害児（者）通園事業「トゥモロー」

幼児期から大人まで重症心身障害児（者）の日常動作や運動訓練、入浴サービス、食事指導、代替コミュニケーション、医療相談、スヌーズレン、感覚統合訓練など、個々に合わせた支援計画をもとにご利用いただけます。

また、必要に応じ、理学療法士、言語聴覚士がリハビリや摂食指導もおこないます。相談支援員等がご家庭での生活のご相談にも応じています。

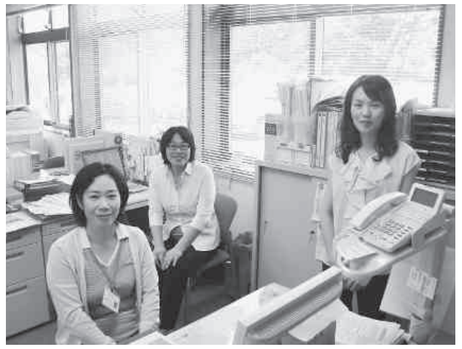
対象地域：但馬全域
利用定員：一日5名（現登録者数25名）
利用日時：月～金曜日　10時～16時
職　員　数：看護師、介護福祉士、保育士3.5名（午前4名、午後3名）調理員1名

「トゥモロー」は保護者の皆さんの要望からできた事業で、重症心身障害児（者）の方の日中活動・療育の場として活動をしています。現在行っているプログラムでは、午前中は「朝の会」を行い、絵本の読み聞かせ、体操、マッサージ（口腔も含む）等に取り組んでいます。午後からは、日替わりのプログラムで創作、スヌーズレン、レクリエーション（ボーリングなど）等を実施しています。実際、毎日のプログラムの中でコミュニケーションカードの提示の練習や身体のマッサージを継続する事で、徐々に利用者の能力に変化が見られており、利用者の皆さんが少しでも良い明日（トゥモロー）を過ごして頂ける様に努力しています。

ひょうご発達障害者支援センター　クローバー

豊岡ブランチ

発達障害児（者）への相談支援・発達支援・就労支援をしています。また、家族や関係機関への研修・啓発もしています。必要に応じて、発達検査を行います。



対象地域：但馬全域
利用対象：自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD（学習障害）、AD／HD（注意欠陥/多動性障害）などの障害をもつご本人、ご家族、関係施設、関係機関のスタッフなど。対象となる方の年齢は問いません。
相談時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く）
相談受付：受付後、相談日を決定します。
　　相談票を送りますので相談日までにご返送ください。
　　外来・電話・Eメール・FAX訪問等の相談に応じます。
　　（相談にかかる費用は無料です）
　　予約制になります。電話相談30分、外来相談60分
所 在 地：〒668−0065 兵庫県豊岡市戸牧1029−11
T　E　L：0796−37−8006
F　A　X：0796−22−8811
E-mail：clovertoyooka@h-ryouiku.com

まだまだ社会的認知度が低い発達障害を、様々な支援機関と協力して勉強会などを行い地域社会への理解を深める活動も行っています。また、発達障害児（者）がいる家庭や学校等所属機関での支援の方法等を一緒に考え、具体的に支援していきます。

障害者相談支援事業「ぴあほくたん」

障害をお持ちの方が地域で快適に暮すための各種ご相談に応じます。又、北但広域療育センター「風（ふう）クリニック」利用についてもご相談ください。関係施設、園、学校等関係機関からの相談にも応じます。必要に応じ、地域の関係機関とケア会議や連絡会議を行ないます。

対象地域：豊岡市・香美町香住区・新温泉町
相談日時：9:00～17:00（日、祝日を除く）
所 在 地：〒668−0065 兵庫県豊岡市戸牧1029−11
T　E　L：0796−22−8688　F　A　X：0796−22−8811

上記対象地域を中心に知的・身体障害をお持ちのこどもから大人までの相談業務をしています。相談者が、地域の資源（サービス）を使う上での橋渡しとなる、助言・相談支援を行います。電話相談だけでなく、ご本人との面会や学校・施設での様子や自宅での様子から関係を重ね、ご本人理解を深めご本人の希望に適したサービスの紹介を行っています。

豊岡市療育支援事業

豊岡市にお住まいの、小学生のお子さんを対象に、日常生活での活動の場を確保し、生活に根付いた療育を提供していきます。

センター内及び各町へ出向いて療育を行ないます。

対象地域：豊岡市
利用定員：1日5名程度
利用日時：月一回各指定日　及び　土曜日
スタッフ：保育士（サービス管理責任者）臨床発達心理士
　　理学療法士　言語聴覚士
　　※受給者証・契約が必要

専門性を持ったスタッフが療育を伴う居宅支援、保護者の計画を中心に地域に出向いて活動を行っています。

だでいま、旧豊岡、出石、但東、日高、竹野地域で活動を行っています。

風（ふう）発達クリニック

小児科　・　精神科　・　神経内科

大森医師

風（ふう）発達クリニックは、センター内に発達障害児（者）の方のための診療部門として開院しました。

太田垣院長（月曜、火曜、水曜、金曜）と大森医師（大森クリニック院長、木曜半日）が診療にあたっています。太田垣医師は、小児科及び小児神経科（大人で言えば神経内科）が専門で、知的障害及び運動発達障害を含む“広い意味での発達障害”の診療を行い、大森医師は、精神科及び診療内科が専門です。

日本独自のシステムとして、乳幼児健診があります。その結果、発達については小児科医が窓口になって専門医へつなぐことが一般的です。早期に療育的支援が開始されることが望ましく、成人になってからでは療育的介入がむずかしくなります。

太田垣院長は、子供の相談窓口として、医療機関はとても敷居が高いように思われているかもしれませんが、ぜひ一般診療と合わせて、気軽に子育ての不安、お子さんのちょっと気になるところなどなんでもご相談くださいと話されていました。

また、都心部の発達診療機関では初診が数年待ちの現状です。お困りの方は、遠方からでも構いません。お問い合わせください。（平成22年度より、心理相談部門を併設し、但馬圏域外から広くご相談やカウンセリングをお受けすることができるようになりました。）

寺下看護師　太田垣院長

電話番号／0796−37−8001

（電話受付時間 9:30〜17:00）

種谷牧師メッセージ　「洗足」によせて

私は但馬にある神戸聖隷福祉事業団の施設群の中の「地の塩伝道所」の協力牧師です。

「水について」（フランシス・ポンジュ）という詩があります。「私より低い処に、常に低い処に水はいる。水は絶えず崩れ、何時も一切の形態を放棄する。唯、屈従する事を心掛け地面に腹這いになって横たわる。或る世代の海豹類のように殆ど屍となって。常に低くある事、水の金言はこのようなものだとおもわれる。つまり一段上にいることの反対なのだ。」水は器に従ってその型を変えます。どんな形でも採りながら水は水である事をやめない。あらゆるものに命を与え蘇らせ、低い処に流れます。

40年余り前、尼崎教会の就任式での教区長の祝辞を覚えています。「牧師の仕事は人の足を洗う事です。人は誰も自分の汚れた部分を隠します。その汚れた部分を洗う仕事は難しい。注意深く祈って配慮して洗わないと勤まらない…」もう1つ30数年前「牧会権裁判」の被告人だった時、北海道の牧師の研修会で、旭川の友人を訪ねました。そこで作家の三浦夫妻とお会いしました。支援者だったので集会後挨拶をした時、綾子さんが話された言葉も憶えています。「近頃、真理や愛、正義といった感覚を失った人が増えてきた。有力なものであろうとするために永遠の世界や価値に対する感覚が消えて往く。この問題を光世さんに口述筆記してもらってでも書き続けたい…」私は感動しました。

神戸聖隷の理事長土肥さんは伝道所初代牧師で「地の塩」と名付けた人です。聖隷はホーリーサーバント、職員は相互の足を洗い利用者の足を洗う仕事です。どんな役割にいても主イエスは「1番上になりたい者は全ての人の僕となりなさい。人の子（イエス）は仕えられるためでなく、仕えるために、又多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た。」（マルコ10章44〜45）と言っておられます。

編集後記

神戸聖隷の35年を記念して創刊された広報紙「洗足」です。広報委員会発足後6ヶ月の時を経て皆さんにお届けする事ができました。各施設ではそれぞれ機関紙の発行はしておりますが、法人全体の広報紙は初めての事です。やっと完成しました。今後さらに神戸聖隷の事、施設の事、福祉の事を知って楽しんで頂けるように試行錯誤してまいります。

年2回の発行の予定で次回は半年後です。

どうぞ今後とも神戸聖隷福祉事業団と広報紙「洗足」を宜しくお願い致します。

「洗足」Vol.1
2010年9月15日
発行人　土肥隆一
発　行　社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
〒654-0142 神戸市須磨区友が丘1-1
TEL.078-792-7555（法人本部）
郵便振替口座 00920-9-163818
編　集　社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
広報委員会
寄　付　利用者（障害者）の一層のサービス向上に資するため、法人は皆様のご寄付をお願い申し上げております。
同封の振替用紙をご利用下さい。